

(様式1)

自己評価票

- 自己評価は全部で**100**項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入して下さい。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	古都の家 学園前
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	奈良市二名東町3750-2
記入者名 (管理者)	若野 達也
記入日	平成 19年 6月 5日

自己評価票(古都の家学園前 1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に感じ、共に励まし、共に助け合う、そして、張りのある生活、人生を築きます」の理念を掲げ、喜怒哀楽の感情を素直にだせる環境作りと、地域での生活をできる限り自立した形で過ごせるように努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症高齢者グループホームに関わる法令の意義を理解し、理念・方針を掲げている。また、その理念等を日々のカンファレンスや申し送り等で具体的に話し、職員間で共有している。	○ 認知症ケアの熱意が全国的にも薄れつつある中で、職員が熱意をもって働く意欲がわくように、ただ単に言葉の押し付けでなく、実践や研修の中で身につけていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に理解してもらうために、入居前に説明し、事業所の中にも理念を目に付きやすい場所に掲示している。地域には、自治会の定例会に参加し、会合の中でグループホームの説明や報告を随時行ったり、民生委員会の見学を受け入れグループホームの説明などを行っている。また、地域の社会資源に対してホーム便りを発行し、定期的に郵送している。	○ 地域との関係は、日々の積み重ねです。1日1日を大切に、信頼関係を積み重ねて生きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会の役員として定例会以外に懇親会などにも参加している。近隣の方とも日頃から付き合いをしている。毎日の散歩や新聞取り、花壇の手入れを入居者と共に作業しているので、近隣の方との挨拶なども日常的にできている。また地域110番などの役割もしているので、気軽に立ち入れるような雰囲気作りをしている。	○ 気軽に立ち寄れる雰囲気づくりだけでなく、実際に立ち寄ってもらえる環境づくりを考えていく必要がある。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にて福祉担当をしているので、老人会の参加や行事・地域活動は地域住民として当たり前のことであり、日常的に行っている。自治会主催のレクリエーションで施設庭を使いバーベキューやゲームを行なっている。	○ バーベキュー大会のような催し物を今後も積極的にやっていきたい。可能であれば、近隣自治会との合同イベントを企画したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会の月1回の会議で、認知症の相談や地域の方との親睦会を行っている。自治会の役員として、話し合いもできている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施することにより、職員全体が1年間の反省やよい点等の再確認ができている。また、評価を行うことで、入居者のニーズの変化や体制の変更の必要性等を発見でき、具体的に改善できている。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター・自治会・家族の意見等を聞き、勉強会の実施・子ども会のバーベキューの参加・地域活動の参加・医療体制の強化等運営推進会議を行うことで、質の向上につなげている。	○ 運営推進会議は、地域、自治体によって取り組み方等がさまざまです。どのスタイルがいいのかまだ取り組み中です。全国・県内の同事業所と検討していく中で、新たな取り組みを常に模索していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当から事業所の問題点や運営に対する意見などを聞ける環境にある。行政関係者からの講演依頼等要請があれば協力できる体制もできている。	○ 近づきすぎてもいけないけど、連携も密接しなれないといけない。バランスが難しい。しかし、市に
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、権利擁護に関する制度の概要を理解するために情報の共有化を大切にしている。実際、相談や申請などの状況が発生した場合は、相談員やケアマネージャーが対応している。	○ 権利擁護に関する制度の理解をさらに深めて行く為に、研修会や勉強会を行なっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止関連法の概要について学び、地域又ホーム内で発見した場合は、速やかに管理者・行政・第3者委員への連絡をいれるようにしている。	○ 高齢者虐待法に関する制度の理解をさらに深めて行く為に、研修会や勉強会を行なっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に運営規程や重要事項説明書等に眼を通してもらい、契約時には改めて口頭及び文書にて説明を行なっている。解約時も十分に話をする機会を設け、納得のいく説明や対応を行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見や不満・苦情を言えるように、コミュニケーションを重要視した日常業務を行なっている。ラポール構築のために旅行を実施したり、日常業務を一緒に行なうなど、気軽に話しかけができる雰囲気を作るよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、生活状況や健康状態・金銭管理状況などを口頭で伝えている。また、個々に月間報告や計画書等を郵送している。レクリエーションなどの様子は、広報誌やイベント時にビデオ上映するなどして伝えている。	○ 家族が何を知りたいのか、何を求めているのかをもう少し知る必要があり、そのための情報収集を今後行なっていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満・苦情を言えるように、面会時に声かけを多くするなど、気軽に話しかけができる雰囲気作りをしている。後、電話・メール・郵送などの手段でも対応できるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を日常業務の中でも言えるようにしたり、会議や申し送り等のなかでも意見や提案を言えるようにしている。また、メールでも運営に反映できるようになっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1日の流れの中で、入居者本位の暮らしを支援できる人員配置にしている。例えば、買物やイベント時には人数を増やすなど。また、ホーム長や統括部長はローテーションに組み込まず、急な欠員や家族相談等にも対応できるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ゆとりを持った職員配置になるようにし、職員が少しでも働きやすい環境作りをしている。職員が代わる場合などは、早期に職員を入れるよう利用者のダメージを防ぐなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修として、県や市・全国グループホーム協会・認知症ケア学会・地域包括支援センター・介護福祉士会・介護支援専門員協会などの研修や勉強会、そして病院や他施設での研修に参加している。参加できない職員には、直接現場で伝えるよう努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良県内のグループホームとの交流会や県外のグループホームとの交流、地域包括支援センター主催の奈良市西部ネットワーク会や病院との交流を行い、ネットワークを構築している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務時間や勤務日などの希望を聞くことで、無理な勤務体制にならないよう工夫している。全国大会等の参加・親睦会・他の施設との交流を多くし、ストレスを発散できるようにしている。外部委員もいて、働きにくい時などの相談を匿名でもできるようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修として、県や市の研修事業・全国グループホーム協会・認知症ケア学会・一般の研修会・二名包括勉強会・介護支援専門員協会の研修・病院や他施設での研修に参加し、参加していない職員には伝えることでトレーニングを行っている。職員に行きたい研修に行ってもらい、交流していく中で向上心を持って働いていけるようにしています。	○	個々に目標設定をしてもらい、それらを基に業務への取り組みなどを見るよう心がけている。また、多くの職員に研修へ参加できる機会を設け、目標達成や向上心をもってもらえるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護福祉士をはじめ、相談員、精神保健福祉士がインテークをとり、本人の状況をよく聞くようにしている。在宅環境やデイサービスなどを利用している時など様々な環境から本人を捉え信頼関係を築くよう努めている。	○	正社員全員が初期段階から信頼関係を築けるようにしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護福祉士をはじめ、相談員、精神保健福祉士が家族面接を行ない、状況を詳しく聞けるようにしている。本人だけでなく、家族の生活やキーパーソンの思いなどを大切に情報収集している。	○	正社員全員が初期段階から信頼関係を築けるようにしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホーム職員だけで判断するのではなく、ケアマネージャーや支援センター職員、他機関職員を交え、見極め及び支援を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と相談し対応している。本人にも見学に来てもらい、食事やおやつ作りに参加してもらうなどの工夫をしている。また、現在入居している方々にも協力してもらい、和やかな雰囲気を作れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームの理念にしていることであり、食事や洗濯など、やりたい方と一緒にいき、入居者の得意なことを職員は教えてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議の参加・受診に職員と共に行く・買い物や散歩等一緒に行ってもらっている。又、生活状況・健康状態・金銭管理状況などを来所時に口頭で伝えている。	○	事情があり来所できない家族さんと、どのように支えあう関係を築いていくかが課題である。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は個々に違いはあるが、その家庭に合わせた取り組みをしている。可能であれば、ドライブ等の外出を進めたり、受診に同伴してもらおう、また、散歩に同伴してもらおうなど本人との関係を保てるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方の面会も可能にしている。個人情報に関する問題も、事前に連絡入れてもらい家族に確認をとるなどして対応している。会社の同僚・近隣の方等が会いに来ている。もちろん、電話や手紙のやり取りも可能にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が入居者間の潤滑油になるように努めている。できないことをできるようにするのではなく、良いところを発揮してもらえるような環境が作れるようにも努めている。例えば、散歩時に車椅子を押してもらおうなど支えあう環境を大切にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方の家族が遊びに来られ、他の家族と話ができるような環境である。入院で退所になられた方も、職員が面会に行くなど関係性を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握が困難な方には日々の関わりや家族などから情報収集し引き出すよう努めている。イベント等のニーズも多く、誕生日会や寿司、美術館、動物園に行きたいニーズがあれば、実現できるよう努力をしている。	○ ‘把握できない’のではなく、‘把握するように努力する’という姿勢で、今後も対応していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後も本人や家族などから生活歴や生育歴などの情報を収集し把握する努力をしている。これまでの暮らしをできる限り変えないように努力している。	○
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事・洗濯・レクリエーションなどを通して、個々の状態を把握しながら手伝いを依頼している。もちろん無理強いせず、本人のペースに合わせ対応している。	○
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体会議（職員・入居者・家族・関係者）で介護計画を作成する場合もあれば、ホーム職員のみで計画作成する場合もある。職員のみで作成する場合でも、事前に家族や関係者から情報収集している。	○ 基本的な形では行っていますが、本人さんの意見の採り方が非常に難しい。軽度の方ならば、会議での発言もニーズも解かりやすく対応できていますが、中度・重度の方の場合は、家族さん・後見人等が中心となる会議になる。今後は、そのあたりをいかに対応していくかが課題です。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは実施できている。変化があった場合も、関係者などから情報収集し、対応している。	○ 定期的な見直しは出来ているが、急な変化があった時の計画の見直しが遅れる場合が多い。もう少し、迅速に対応し現状に即した対応をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・水分チェック・食事量のチェック・排泄チェック・職員の気づきを、記録・申し送り・ケアプラン等で情報共有している。又、カードックスで情報を一覧できるようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的通院やデイケア利用等の要望があった場合、入居者・家族と話をしながら柔軟に対応している。	○ 3年目からデイサービスやショートステイ等の事業を考えています（但し、奈良市は認知症デイサービスを認めていないらしい）。利用者や地域の方々のニーズをより柔軟に対応できるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会、ボランティア活動の場、警察署との連携、消防訓練や救急救命講習、美術館、小・中学校等に協力してもらえる環境である。	○ ホームだけの取り組みでは、本当の協働は困難である。キャラバンメイトなどを活用して活性化を図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャー・病院のソーシャルワーカー・その他事業所職員など気軽に相談できる関係であり、他のサービスが必要になれば対応できる環境である。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの勉強会参加や講師依頼を引き受けたり、お互いの特徴を活かした関係性を作っている。同じ地域なので、地域イベントを一緒に行うこともある。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が医師と入居者・家族との間に入りスムーズな体制作りを行っている。医師と職員の交流会や入居者・家族と共に医師がイベントに参加する交流会なども行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症を専門にしている医師との情報交換や勉強会、精神科病院での研修に参加するなどの関係性があるので、診療や治療に関して受診支援できる体制は整っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、看護職との協働は実施できていない。	○	訪問看護ステーションとの契約を現在行っている。24時間体制での協働が実施できるよう検討している。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院する病院が連携機関の為、ソーシャルワーカーを中心に早期退院に向けた体制はできている。面会やカンファレンスも行い、互いの情報共有がスムーズに行えている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算を導入するにあたり、入居者・家族・訪問看護ステーション・かかりつけ医等と話し合い、方針を作成し、その項目に対して同意しサインをもらっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応指針を決め、入居者・家族へ説明し同意してもらっている。	○	かかりつけ医・訪問看護ステーション・協力機関等と連携しながらケースごとに柔軟に対応できるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前より、見学・レクリエーションの参加・体験入居等を行い、本人のダメージ軽減に努めている。又、本人・家族・職員・他機関とのケアカンファレンスでの情報の共有化も同時に行っている。	○	リロケーションダメージは、個人によって格差があるため、情報交換が非常に重要になってくる。幸い当ホームは、対応が出来ているためダメージは最小限に抑えられているが、今後も継続できるような徹底していきたい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的に入居者への声掛けは「○○さん」で行っている。必要に応じて「先生（過去の職業）」などプライドを傷つけないように対応している。個人情報については、固定した場所に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の関わりの中や家族などからの情報収集により、ニーズを引き出しやすくしたり、自己決定できる環境を作り出している。例えば、選択肢の中から選んでもらったり、絵や写真、文字などを活用して支援している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記同様、判断することが困難な方はコミュニケーションを中心に希望を引き出せるように努めている。	○	小規模とはいえ集団生活であるから、一人ひとりのペースに合わせることは非常に難しい。希望に沿って、その人らしく暮らしてもらえるのかを常に念頭に置き支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝、整容を行い、身だしなみの支援をおこなっている。出来る方には、手鏡を見てもらいながら髪をといてもらったり、保湿剤を塗ってもらう等の支援も行っている。又、散髪はほとんどの入居者が行き慣れた所で行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けが可能なのは、入居者と一緒に行っている。難難な場合は、職員が盛り付けを行いながら、入居者と食事についてのコミュニケーションを図っている。職員が動くことにより、慌しくならないように、できる限り椅子に座るように努めている。片付けは好んで手伝ってもらえる方に、職員と共に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒が好きな人には飲んでもらい、おやつや飲み物も自由に選んでもらっている。タバコを吸う方は、場所を指定して吸ってもらっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い排泄できるよう支援している。周囲に気を使いながら、トイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に昼に実施している。週2回の入浴と設定しているが、入居者の希望に応じる柔軟な体制を心がけている。ゆっくり入ってもらえるように、1日の入浴者数を少なくし、一人ひとり入ってもらっている。事故等がないよう必ず職員が1名が付き添い、同性介護を目標に支援している。又、付き添うことを拒否する入居者に対しては近くで待機し何かあってもすぐに対応できるように努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの疲労・緊張等に合わせて休息が取れるよう配慮している。外出、入浴後は特に気をつけて対応を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物は入居者と共に行い、コミュニケーションを図りながら行なっている。状況に応じて散歩等は、1対1で行ないゆっくりと過ごしてもらえるよう対応している。掲示してある行事を見ることで、生活に楽しみを持ってもらえるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持に関しては、本人及び家族との話し合いにより決めている。現金所持ができない方に関しては、施設で立て替えるなど、本人の好きな物を買う喜びを重視できるように努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はコミュニケーションから外に出る意欲を引き出せるように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々にアンケートを取り、家族参加の旅行や博物館、水族館、回転寿司等に行っている。	○	一人でも多くの家族に参加してもらえるような内容を企画していきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には本人に電話してもらったり、電話をつないだり、手紙などでのやり取りは自由に行えるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族以外の方の面会も気軽に出来るようになっている。会社の同僚・近隣の方等の訪問もあるので、馴染み関係性が維持できるよう支援をしている。各居室には来客用の椅子を配置するように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がどういうことなのか日頃より意識し、拘束となる行為を目的つく場所に掲示している。精神薬に関しても常に専門医師に相談し調節している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○	鍵をあける当たり前の行為である。しかし、それが安全性にかけることにもなる。制度上の問題、現場の状況から、予見しているにもかかわらず事故という事例もよく聞く。鍵をしめないということを中心でなく総合的な見地から物事を見つめ、家族さん等とも議論を重ねた上で考えていくことも必要になると考える。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	今後は、スプリングクラーの設置や通報装置の設置が義務になると考える。通知後の3年間で、安全性を考えた設備、そして2度と犠牲者を出さないという意識や組織体制の構築も考えていかないといけない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	○	リスクとは常に付き合っていないといけない。リスクマネージャーとして資格の取得をしたが、リスクの勉強は、取得してからがスタートである。これでいいということはない。常に情報収集し、100に近づけるようなマネージメントを行っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		入居者個々の処方箋に添付された服薬表を元に薬剤師が管理をしている。それを職員全員が、内容把握できるようにしている。また、服用により入居者に変化がある場合は家族とかかりつけ医に報告を行内、対応している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		水分補給、調理の工夫（かゆ、きざみ）バナナ・乳製品の利用、散歩等の運動をするなど自然排便できるよう対応している。慢性の便秘の方には、上記プラス医師との連携で服薬コントロールを行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		毎食後、口腔ケアを行っている。又、歯科医から、口腔ケアについても指示を受け、口腔の清潔を日常的に支援している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		基本的には、カロリーバランスを考え栄養士の立てた献立を利用している。入居者の食べたい物があれば、食事選択の日に設定し食べてもらっている。当然、一緒にできる方は準備・配膳等を行っている。水分補給も必要な方はチェック表を使用し、脱水などにも気をつけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザに関しては、主治医と相談し対応している。感染症の流行は（ノロウイルスなど）県の指示で対策を行っている。また、マニュアル作成しており周知徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事で使用する食材はほぼ毎日配達され、翌日に使用して。又、調理器具の衛生管理はマニュアルを作成して周知徹底を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープ角の表札を道路に面した誰にでも目に付きやすい場所に設置したり、郵便受けの表札と花壇は、入居者と共に作業している。又、地域110番など気軽に立ち入れるような雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは1日2回掃除を行っている。障害物を少なくし、食堂やリビングや廊下を入居者が気兼ねなく歩けるようにしている。また、台所も危険な物以外は誰でも取り出し出来るようにしている。	○	入居者さんの変化や状況に応じて、変化が出てくる。これでいいということはないので、変化に応じて、今後も柔軟に対応をしていきたいと考える。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル・いす等の配置は、入居者同士の関係性や個々の状態に合わせた環境を共に作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>私物の持込は自由にしている。その為、ベッドの方や布団の方がおり、各室に特徴がある。写真や趣味の物も持ってきている方もいる。本人が居心地がよく過ごせるよう、職員と共に考えるよう心がけています</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>定期的に換気している。便失禁等の場合は、その都度換気している。冷暖房を利用するので、各居室に温湿度計を設置し調整を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・トイレ・風呂・玄関等に手すりを配置している。身体障害者が入居できるように、県の「住みよい福祉の町づくり条例」に適合した建築である。又、入居者に合わせて階段や風呂等に滑り止めなど必要であれば、その都度安全かつ自立した生活ができるように工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ホームや生活に慣れるまでは、表札や目印が必要であるが、時間の経過により理解してくることもあるため、表札等は基本的に推進していない。ここに合った対応を実践している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>日光浴・庭の掃除・朝夕の花の水やり・畑仕事・新聞の受取・洗濯干し等入居者の個々のペースにあわせて行っている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成19年6月4日に認知症介護研究・研修センター 評価推進プロジェクトの平林さんから、外部評価の行い方について講義を受けた。今回の外部評価には間に合わない
ので、次回の評価からは教わったものをいかして外部評価に取り組んでいきたい。消防法の改正が行われる。その改正から3年の間に設備の設置を行いたい。全国認知症グループホーム協会の奈良支部の設立に向けて、奈良県の会員と共に準備していきたい。そして、入居者さん・家族さんにより安心・楽しく・安全な暮らしを提供できるように努力していきたい。職員が、より力を発揮できるようにトップダウンでなくボトムアップの形で常に現場の意見を優先にした運営を考えていきたい。西部地区は、包括を中心としたネットワークができています。そのネットワークでは、勉強会なども積極的に行っており、認知症のケア等の講師はグループホームが行ったり、医療のことは看護師さんが行ったり、それぞれの職種が講師となり専門性の質の向上と横のつながりをもつことで職員のストレス軽減に努めている。

(様式1)

自己評価票

- 自己評価は全部で**100**項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入して下さい。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	古都の家 学園前
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	奈良市二名東町3750-2
記入者名 (管理者)	若野 達也
記入日	平成 19年 6月 5日

自己評価票（古都の家 学園前 2階）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に感じ、共に励まし、共に助け合う、そして、張りのある生活、人生を築きます」の理念を掲げ、喜怒哀楽の感情を素直にだせる環境作りと、地域での生活をできる限り自立した形で過ごせるように努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症高齢者グループホームに関わる法令の意義を理解し、理念・方針を掲げている。また、その理念等を日々のカンファレンスや申し送り等で具体的に話し、職員間で共有している。	○ 認知症ケアの熱意が全国的にも薄れつつある中で、職員が熱意をもって働く意欲がわくように、ただ単に言葉の押し付けでなく、実践や研修の中で身につけていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に理解してもらうために、入居前に説明し、事業所の中にも理念を目に付きやすい場所に掲示している。地域には、自治会の定例会に参加し、会合の中でグループホームの説明や報告を随時行ったり、民生委員会の見学を受け入れグループホームの説明などを行っている。また、地域の社会資源に対してホーム便りを発行し、定期的に郵送している。	○ 地域との関係は、日々の積み重ねです。1日1日を大切に、信頼関係を積み重ねて生きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会の役員として定例会以外に懇親会などにも参加している。近隣の方とも日頃から付き合いをしている。毎日の散歩や新聞取り、花壇の手入れを入居者と共に作業しているので、近隣の方との挨拶なども日常的にできている。また地域110番などの役割もしているので、気軽に立ち入れるような雰囲気作りをしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にて福祉担当をしているので、老人会の参加や行事・地域活動は地域住民として当たり前のことであり、日常的に行っている。自治会主催の秋のレクリエーションで施設庭を使いバーベキューやゲームを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>自治会の月1回の会議で、認知症の相談や地域の方との親睦会を行っている。自治会の役員として、話し合いもできている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価を実施することにより、職員全体が1年間の反省やよい点等の再確認ができています。また、評価を行うことで、入居者のニーズの変化や体制の変更の必要性等を発見でき、具体的に改善できています。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>包括支援センター・自治会・家族の意見等を聞き、勉強会の実施・子ども会のバーベキューの参加・地域活動の参加・医療体制の強化等運営推進会議を行うことで、質の向上につなげている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議は、地域、自治体によって取り組み方がさまざまです。どのスタイルがいいのかまだ取り組み中です。全国・県内の同事業所と検討していく中で、新たな取り組みを常に模索していく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当から事業所の問題点や運営に対する意見などを聞ける環境にある。行政関係者からの講演依頼等要請があれば協力できる体制もできています。</p>	<p>○</p> <p>近づきすぎてもいけないけど、連携も密接ししないといけない。バランスが難しい。しかし、市に対する相談・連絡・報告は必ずしっかりと行わないといけない。市からの要請等あれば積極的に対応していきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は、権利擁護に関する制度の概要を理解するために情報の共有化を大切にしている。実際、相談や申請などの状況が発生した場合は、相談員やケアマネージャーが対応している。</p>	<p>○</p> <p>権利擁護に関する制度の理解をさらに深めて行く為に、研修会や勉強会を行なって行きたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は、高齢者虐待防止関連法の概要について学び、地域又ホーム内で発見した場合は、速やかに管理者・行政・第3者委員への連絡をいれるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>高齢者虐待法に関する制度の理解をさらに深めて行く為に、研修会や勉強会を行なって行きたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に運営規程や重要事項説明書等に眼を通してもらい、契約時には改めて口頭及び文書にて説明を行なっている。解約時も十分に話をする機会を設け、納得のいく説明や対応を行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見や不満・苦情を言えるように、コミュニケーションを重要視した日常業務を行なっている。ラポール構築のために旅行を実施したり、日常業務を一緒に行なうなど、気軽に話しかけができる雰囲気を作るよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、生活状況や健康状態・金銭管理状況などを口頭で伝えている。また、個々に月間報告や計画書等を郵送している。レクリエーションなどの様子は、広報誌やイベント時にビデオ上映するなどして伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満・苦情を言えるように、面会時に声かけを多くするなど、気軽に話しかけができる雰囲気作りをしている。後、電話・メール・郵送などの手段でも対応できるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を日常業務の中でも言えるようにしたり、会議や申し送り等のなかでも意見や提案を言えるようにしている。また、メールでも運営に反映できるようになっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1日の流れの中で、入居者本位の暮らしを支援できる人員配置にしている。例えば、買物やイベント時には人数を増やすなど。また、ホーム長や統括部長はローテーションに組み込まず、急な欠員や家族相談等にも対応できるようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ゆとりを持った職員配置になるようにし、職員が少しでも働きやすい環境作りをしている。職員が代わる場合などは、早期に職員を入れるよう利用者のダメージを防ぐなどの配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
<p>19 ○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修として、県や市・全国グループホーム協会・認知症ケア学会・地域包括支援センター・介護福祉士会・介護支援専門員協会などの研修や勉強会、そして病院や他施設での研修に参加している。参加できない職員には、直接現場で伝えるよう努めている。</p>		
<p>20 ○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>奈良県内のグループホームとの交流会や県外のグループホームとの交流会、地域包括支援センター主催の奈良市西部ネットワーク会や病院との交流会を行い、ネットワークを構築している。</p>		
<p>21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務時間や勤務日などの希望を聞くことで、無理な勤務体制にならないよう工夫している。全国大会等の参加・親睦会・他の施設との交流を多くし、ストレスを発散できるようにしている。外部委員もいて、働きにくい時などの相談を匿名でもできるようにしている。</p>		
<p>22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修として、県や市の研修事業・全国グループホーム協会・認知症ケア学会・一般の研修会・二名包括勉強会・介護支援専門員協会の研修・病院や他施設での研修に参加し、参加していない職員には伝えることでトレーニングを行っている。職員に行きたい研修に行ってもらい、交流していく中で向上心を持って働いていけるようにしています。</p>	○	<p>個々に目標設定をしてもらい、それらを基に業務への取り組みなどを見るよう心がけている。また、多くの職員に研修へ参加できる機会を設け、目標達成や向上心をもってもらえるように努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護福祉士をはじめ、相談員、精神保健福祉士がインテークをとり、本人の状況をよく聞くようにしている。在宅環境やデイサービスなどを利用している時など様々な環境から本人を捉え信頼関係を築くけるよう努めている。	○	正社員全員が初期段階から信頼関係を築けるようにしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護福祉士をはじめ、相談員、精神保健福祉士が家族面接を行ない、状況を詳しく聞けるようにしている。本人だけでなく、家族の生活やキーパーソンの思いなどを大切に情報収集している。	○	正社員全員が初期段階から信頼関係を築けるようにしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホーム職員だけで判断するのではなく、ケアマネージャーや支援センター職員、他機関職員を交え、見極め及び支援を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と相談し対応している。本人にも見学に来てもらい、食事やおやつ作りに参加してもらうなどの工夫をしている。また、現在入居している方々にも協力してもらい、和やかな雰囲気を作れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームの理念にしていることであり、食事や洗濯など、やりたい方と一緒にいき、入居者の得意なことを職員は教えてもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議の参加・受診に職員と共に行く・買い物や散歩等一緒にいってもらっている。又、生活状況・健康状態・金銭管理状況などを来所時に口頭で伝えている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は、それぞれにあり、その家庭に合わせた取り組みを行っている。無理せずそれぞれの生活を大切にし、職員がよい距離感を保てるように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方の面会も気軽に来れるようになっている。個人情報もあるが、事前に連絡をもらうなど、会社の同僚・近隣の方等、会いに来られている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	最初は、職員が間に入りながら入居者間の潤滑油となっているが、時間がたてば、おのおのの部屋に行って話をしたり、車椅子を押したりと支えあう環境を大切にしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方の家族が、遊びに来られ他の家族と話をできるような環境でもある。入院で退所になられた方も、職員が面会に行くなど関係性を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とはコミュニケーションを大切にしている。イベント等のニーズも多く、家具や椅子ひとつについても皆で話し合い決めている。食べたい物があれば、誕生日会やレクでお寿司を食べに行ったり、動物園に行きたいニーズがあればそれを実行する努力を行っている。ニーズを言語化しにくい方は、顔の表情や行動で意思の確認が出来るよう努めている。	○	すべての人のニーズを共同生活で取り入れることは、非常に難しい。しかし、できる限りニーズに添えるよう対応を柔軟に行っていききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も生活歴や生育歴などを把握する努力をし、これまでの暮らしをできる限り変えないように努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ゴミ箱の掃除や食事量の確認、部屋に居る時間や入居者同士での会話等などから、どのような状態で過ごされているのか総合的に把握出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体会議（職員・入居者・家族・関係者）と言う形で介護計画を作成する場合もあれば、個別に話し合った形で作り上げる場合もある。その中で、意見やアイデアは当然反映した形になっている。	○	基本的な形では行っていますが、本人さんの意見の採り方が非常に難しい。軽度の方ならば、会議での発言もニーズも解かりやすく対応できていますが、中度・重度の方の場合は、家族さん・後見人等が中心となる会議になる。今後は、そのあたりをいかに対応していくかが課題です。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを行うことは実施している。定期的ではなく、状態に合わせた形での対応を心がけている。チームでの対応で計画を作成している。	○	定期的な見直しは出来ているが、急な変化があった時の計画の見直しが遅れる場合が多い。もう少し、迅速に対応し現状に即した対応をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・水分チェック・食事量のチェック・排泄チェック・職員の気づきを、記録・申し送り・ケアプラン等で情報共有している。又、カードックスで情報を一覧できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的通院やデイケアの利用等の要望があるときは、入居者・家族と話をしながら柔軟に対応している。	○	3年目からデイサービスやショートステイ等の事業を考えています。入居さんや地域の方々のニーズをより柔軟に対応できるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの活動の場・警察署との連携・消防訓練や救急救命講習・美術館や小中学校等と協力しながら、入居者のニーズを支援出来るように努めている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャー・病院のソーシャルワーカー・その他事業所職員など気軽に相談できる関係であり、他のサービスが必要になれば対応できる環境である。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括の勉強会の参加や講師依頼を引き受けたり、お互いの特徴をいかした関係性をつくっている。同じ地域なので、地域イベントを一緒に行うこともある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>職員が医師と入居者・家族との間に入りスムーズな体制作りを行っている。医師と職員の交流会や入居者・家族と共に医師がイベントに参加する交流会なども行っている。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症を専門にしている医師と情報交換や勉強会、精神科病院での研修などの関係性があるので、診療や治療に関して受診支援できる体制はが整っている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約を現在行っている。24時間体制での協働を行っている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院する病院が連携機関の為、ソーシャルワーカーを中心に早期退院に向けた体制はできている。面会やカンファレンスも行い、互いの情報共有がスムーズに行えている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携加算の時に入居者・家族・訪問看護ステーション・かかりつけ医等と話し合い、方針を作成し、その項目に対して同意サインをもらっている。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>対応指針を決め、入居者・家族へ説明し同意してもらっている。かかりつけ医・訪問看護ステーション・協力機関等と連携しながらケースごとに柔軟に対応できるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前より、見学・レクリエーションの参加・体験入居等を行い、本人のダメージ軽減に努めている。又、本人・家族・職員・他機関とのケアカンファレンスでの情報の共有化も同時に行っている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>自尊心を傷つけるような声掛けは行なわず、個々に合わせた対応を行っている。プライバシーに関わるような話しは、個室で行うなど配慮している。又、記録などの保管は紛失がないように、1箇所管理している。</p>	<p>○</p> <p>プライバシーに関しても、医療機関や施設のようにステーションがあるわけでもなく、同じ生活空間で対応している。自分たちは、対応できていると思うが、他の施設と比べてどうなのかはわからない。多くの事業所と情報交換しさらなる配慮を検討していく。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>買い物（随時）、食事（おやつ含む）の選択、植える花を選んだり、水族館、奈良公園など外出先を選んでもらう等、入居者のニーズを実行するように心掛けている。入居者が意見を言いやすい雰囲気を作り、職員との話す機会を多く設けるようにしている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者のペースに合わせて、こちらの都合で物事を進めないように努めている。仕事をしていても、していないように見せる工夫を心がけ、声を掛けやすい雰囲気を常に心がけている。入居者より希望が出ると、一緒に相談しスケジュールを決めるなど、個々のペースで対応行っている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入浴者の希望や生活背景から服装を整えている。女性の方は、化粧等をするよう働きかけている。男性も馴染んだ物や好きな衣類を着てもらおうようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は、テレビを消し落ち着いて食べてもらえるようなBGMを流している。職員が動くことによるあわただしさをおさえる為に、できる限り椅子に座って、動くことを最小限にしている。食事は、職員も一緒に食べる事で食事中の会話もはずんでいる。食事の準備や配膳などは入居者が行っている。	○	みんなで食事をとるシステム・食事をしながら会議を行うシステム等全国では、さまざまな対応を独自で行っている。私たちも、この施設にとって一番いいスタイルをみつけたいけるよう努力していきたい
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒が好きな人には飲んでもらい、おやつや飲み物も自由に選んでもらっている。タバコも吸う方は、場所を指定して吸ってもらっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	8割の方は自立している。そのため、尿量や便の有無に関しては、入居者から定期的に排泄状況の確認を行っている。トイレ誘導が必要は方には、周りに配慮しながら援助している。ポータブルトイレ利用者には、随時汚染物の処理を行っている(ケースに合わせて)。失禁時もプライバシーに配慮し、さりげなく支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に昼に実施している。週2回の入浴と設定しているが、入居者の希望に応じる柔軟な体制を心がけている。ゆったりとはいってもらえるように1日入浴者数を少なくし、順番は入居者に決めてもらうよう働きかけている。入浴は一人ひとり入ってもらい、事故等がないよう必ず職員が1名ついていて、同性介護を行って、ケースに合わせ浴室内外では、自分でできることはしてもらい、その際もさりげなく様子を伺い声をかけたり必要に応じ介助している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの疲労・緊張等に合わせて休息が取れるよう配慮している。外出、入浴後は特に気を付けて対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者には、出来る事を実施してもらっている。食事準備をされる方、洗濯物を干す・たたむ方、その方に負担の無いように行ってもらっている。出来ない方には、出来る方が手を貸し助け合って生活されている。掲示してある、年間行事を見る事で、生活に楽しみを持ってもらい、散歩や花の手入れ、読書、テレビ、手芸などを支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	自己管理可能な方には、お金を持ってもらっている。また困難な方は、買い物に行く時に財布を渡し、支払いを自己で行ってもらっている。	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	1日のスケジュールを決めていないので、その日の入居者の希望に応じて外出支援を行なっている。徒歩にて公園・神社等への散歩、スーパーへ買い物に行くこともある。喫茶店、美術館、外食などのニーズの時は、車を使用し援助を行なっている。	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	会話の中で外出したい場所等を話し、海遊館・奈良公園・自宅など具体的に実行している。また、日帰り・一泊旅行などで家族も参加しやすい形を作り、ともに出掛けられる時間を作れるように努めている。	
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	個々の家族構成にもよるが、基本的には本人に電話してもらったり、電話をつないだり、手紙などでのやり取りは自由に行えるように支援している。	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	家族以外の方の面会も気軽に来れるようになっている。会社の同僚・近隣の方等会いに来られるので、馴染みの方との関係性も維持できるよう支援をしている。各居室に必要な方には椅子の配置を行っている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	身体拘束がどういうことなのか日頃より意識し、拘束となる行為を目的つく場所に掲示している。精神薬に関しても常に専門医師に相談し調節している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>66</p> <p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>本人が出たい場合は出れる環境である。外に出られる時は、職員に声を掛けて行ってもらっている。声を掛けて出のを忘れる方がいるのでセンサーをつけ把握している。自治会にも参加して顔馴染みにもなっている。1人で歩いていると声を掛けてもらえるようになっている。やむを得ない場合は根拠を明確にし、家族にも説明・同意を得ている</p>	○	<p>鍵をあける当たり前の行為である。しかし、それが安全性にかけることにもなる。制度上の問題、現場の状況から、予見しているにもかかわらず事故という事例もよく聞く。鍵をしめないということを中心でなく総合的な見地から物事を見つめ、家族さん等とも議論を重ねた上で考えていくことも必要になると考える。</p>
<p>67</p> <p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>入居者の所在確認を1時間ごとに行なっている。点呼ではなく、レクリエーション・食事・排泄などを通して行なっている。</p>		
<p>68</p> <p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>薬・洗剤・刃物など注意の必要なものに関しては、保管室又は倉庫保管している。また、入居者の状態変化などで対応が必要になった場合はすぐに対策を考え周知徹底を行っている。</p>		
<p>69</p> <p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>個々の状態に合わせ介助を行い、事故防止を行なっている。又、事故報告書・ヒヤリハットを作成し、再発防止に努めている。</p>		
<p>70</p> <p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>急変時等は、主治医への報告・指示をもらっている。夜間連絡困難時は、協力医療機関に救急搬送している。その時のマニュアルは、作成しており周知徹底を行っている。消防局での普通救命講習を定期的受講している。</p>		
<p>71</p> <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害訓練等を年2回行なっている。マニュアルを作り職員へ周知徹底を行っている。地域の自治会での定例会で、協力依頼もしており、夜間時など人の少ない時には応援ができる体制をとっている。</p>	○	<p>今後は、スプリングクラーの設置や通報装置の設置が義務になると考える。通知後の3年間で、安全性を考えた設備、そして2度と犠牲者を出さないという意識や組織体制の構築も考えていかないといけない。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	入居前に家族に対し、リスクに関する説明と同意 を得てから契約をしてもらっている。リスクに対 する防止策は、個別に家族と話し合い対応を考 えている。	○	リスクとは常に付き合っていないといけない。 リスクマネージャーとして資格の取得をしたが、 リスクの勉強は、取得してからがスタートであ る。これでいいということはない。常に情報収集 し、100に近づけるようなマネジメントを 行っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気付いた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	毎日、バイタル測定を行なっている。又、食事、 表情、歩行など本人の状態を常に観察し、早期 発見に努めている。状態に変化がみられた場合 は、かかりつけ医に報告・相談を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている	入居者個々の処方箋に添付された服薬表を元 に薬剤師が管理をしている。それを職員全員 が、内容把握できるようにしている。また、 服用により入居者に変化がある場合は家 族とかかりつけ医に報告を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理 解し、予防と対応のための飲食物の工夫 や身体を動かす働きかけ等に取り組んで いる	予防に向けて、水分補給、調理の工夫 (かゆ、きざみ)バナナ・乳製品の利用、 散歩等の運動をするなど自然排便を心 がけている。慢性の便秘の方には、 上記プラス医師との連携で服薬コン トロールを行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に 応じた支援をしている	口腔ケアは入居者自身に任せているこ とが多い。声掛けが必要な方には随 時行っている。又歯科医から、口 腔ケアについても指示をうけ、口 腔の清潔を日常的に支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が 一日を通じて確保できるよう、一人 ひとりの状態や力、習慣に応じた 支援をしている	基本的には、カロリーバランスを考 え栄養士の立てた献立を利用してい る。入居者の食べたい物があれば、 食事選択の日を設定し食べてもら っている。当然、一緒にできる方 は準備・配膳等を行っている。水 分補給も必要な方はチャック表 を使用し、脱水などにも気をつけて いる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザに関しては、主治医と相談し対応している。感染症の流行は（ノロウイルスなど）県の指示で対策を行っている。また、マニュアル作成しており周知徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事で使用する食材はほぼ毎日配達され、翌日に使用して。又、調理器具の衛生管理はマニュアルを作成して周知徹底を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープ角の表札を道路に面した誰にでも目に付きやすい場所に設置したり、郵便受けの表札と花壇は、入居者と共に作業している。又、地域110番など気軽に立ち入れるような雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の意見を取り入れ、フロアの模様替えを実施している。食堂と居間に区切りをつける事でメリハリのついた過ごしやすい空間になっている。又、フロアに花や壁飾りを行なう事で季節感を感じれるようにしている。	○	入居者さんの変化や状況に応じて、変化が出てくる。これでいいということはないので、変化に応じて、今後も柔軟に対応をしていきたいと考える。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル・いす等の配置を入居者と共に配置を決め、入居者同士の関係性や個々の状態に合わせた環境を共に作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋は、私物の持込を原則自由に行っている。そのため統一したベッドでなく、各室特徴がある。写真や趣味の物も持ち込んでおられる方もいる。後、衛生面を考え日常業務の中で、居室の掃除に気をつけている。使い慣れたものということではなく、本人が居心地よく過ごせるように心がけている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気の時間を決めて空気の入換えを行っている。便失禁等の場合は、その都度換気している。冷暖房を利用するので、各居室に温湿度計を設置し調整を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>廊下・トイレ・風呂・玄関等に手すりを配置している。身体障害者が入居できるように、県の「住みよい福祉の町づくり条例」に適合した建築である。又、入居者に合わせて階段や風呂等に滑り止めなど必要であれば、その都度安全かつ自立した生活ができるように工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレ・居間間違いは入居時多かったが、誘導や声かけを1週間ほどしていく中で場所を理解されている。ただ、施設入居して、昔使っていた表札を目印にする方や声かけでの誘導が必要な方もおられる。その方に合わせた対応を常に考え実施している。又、トイレという表示よりも、使用中か否かのほうが入居者には必要なので、わかるような工夫を心がけている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>日光浴・庭の掃除・朝夕の花の水やり・畑仕事・新聞の受取・洗濯干し等入居者の個々のペースにあわせて行っている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成19年6月4日に認知症介護研究・研修センター 評価推進プロジェクトの平林さんから、外部評価の行い方について講義を受けた。今回の外部評価には間に合わない
ので、次回の評価からは教わったものをいかして外部評価に取り組んでいきたい。消防法の改正が行われる。その改正から3年の間に設備の設置を行いたい。全国認知症グループホーム協会の奈良支部の設立に向けて、奈良県の会員と共に準備していきたい。そして、入居者さん・家族さんにより安心・楽しく・安全な暮らしを提供できるように努力していきたい。職員が、より力を発揮できるようにトップダウンでなくボトムアップの形で常に現場の意見を優先にした運営を考えていきたい。西部地区は、包括を中心としたネットワークができています。そのネットワークでは、勉強会なども積極的に行っており、認知症のケア等の講師はグループホームが行ったり、医療のことは看護師さんが行ったり、それぞれの職種が講師となり専門性の質の向上と横のつながりをもつことで職員のストレス軽減に努めている。